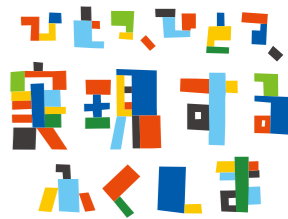


県議会ふくしま

12月定例会(12/6~12/21開催)の概要

第92号

[企画・編集]
福島県議会広報委員会



〈広告〉

原油価格・物価高騰等、新型コロナ、高病原性鳥インフルエンザに対応 県一般会計補正予算503億1,700万円を可決

1 原油価格・物価高騰等への対応	72億9,283万円
【主な内訳】	
・中小企業等の経営コスト削減への緊急支援	13億円
・生活路線バス事業者への緊急支援	11億7,818万円
2 新型コロナウイルス感染症対策	31億9,869万円
【主な内訳】	
・新型コロナウイルス感染症患者等への支援体制強化	8億7,700万円
・自宅療養者への支援体制強化	7億192万円
3 国の総合経済対策への対応	307億3,356万円
【主な内訳】	
・福島県「来て。」割による観光需要の創出	30億1,564万円
・妊娠から出産・子育てにおける伴走型支援体制の強化	15億5,050万円
4 高病原性鳥インフルエンザ対策	3,246万円
【主な内訳】	
・養鶏農家への資金繰り支援(保証料補助)	1,950万円
・養鶏場における防疫対策の強化	1,296万円
総額503億1,700万円	

12月定例会では、原油価格・物価高騰等への対応、新型コロナウイルス感染症対策、国の総合経済対策への対応や高病原性鳥インフルエンザ対策など、総額503億1,700万円が計上された一般会計補正予算案2件を可決しました。

そのほか、知事提出議案として、特別会計等補正予算9件、条例関係40件、決算関係6件、その他18件、議員提出議案として、「食料安全保障の強化を求める意見書」など8件、合わせて81件の議案を可決・認定しました。

また、知事提出の人事関係議案8件に同意しました。

補正予算の主な内容

令和3年度決算議案を可決・認定

令和3年度の決算議案6件を審査していた決算審査特別委員会(満山喜一委員長)を12月14日に開き、採決の結果いずれも可決又は認定すべきものと決定



▲決算審査特別委員会 採決の様子

議員の永年勤続表彰

12月6日の開会の際、渡辺義信議長が全国都道府県議会議長の永年勤続功労者表彰の伝達を行った。受賞した議員は次のとおり。



▲永年勤続功労者表彰

常任委員会が審査を実施

各常任委員会は、12月15日、16日及び20日の3日間開催し、原油価格・物価高騰等への対応などを計上した補正予算案等について審査を行った。

そのうち農林水産委員会(佐々木彰委員長)と土木委員会(宮川政夫委員長)は、災害復旧状況等の現地調査を行った。

特別委員会を開催

「復興加速化・安全安心な県づくりの特別委員会(岡谷健市委員長)、「県民健康・こどもの未来特別委員会(長尾トモ子委員長)、「産業再生・環境共生特別

定例会での主な質疑

県政運営について

【質疑】知事は、三期目の県政運営をどのように行っていく考えなのか尋ねたい。

【答弁】三期目に当たり、次の三つの視点で、県政の様々な施策を「シンカ」※させていく。

一つ目は「ひと」の視点。結婚から子育てまでの切れ目のない支援などを柱とした全国に誇れる健康長寿県を目指す。

二つ目は「暮らし」の視点。避難地域の復興と被災者の生活再建とともに、自然災害や新型コロナウイルス、物価高騰等の影響から暮らしと経済を守り、安全安心な地域社会を構築する。

三つ目は「しごと」の視点。既存産業の振興と風評の払拭はもとより、新産業の創出・集積による雇用の場づくりなど地域経済の活性化を図る。

※知事は「シンカ」に、進める「進化」、深める「深化」、新しくする「新化」の三つの意味を込めています。

原発事故対応について

【質疑】精神的損害の賠償について、避難指示等対象区域外の全域を対象に中間指針の見直しが行われるべきと思うが、知事の考えを尋ねたい。

【答弁】これまで繰り返し、本県の現状をしっかりと把握した上で、適時適切な指針の見直しを行うよう国に求めてきた。現在、原子力損害賠償紛争審査会が中間指針第五次追補の策定に向けた議論を行っている。

委員会(遊佐久男委員長)の3特別委員会を12月19日に開催した。それぞれ付託された事項の協議を行い、21日(閉会日)の本会議で中間報告を行った。

議員勉強会を開催

福島レッドホープス(株)福島野球団)代表取締役兼監督の岩村明憲氏を講師に迎え、「若者の活躍で福島を元気に」と題した強い



▲岩村明憲氏

JR只見線について

【質疑】知事は、全線運転再開後の只見線の現状をどのように捉え、利活用促進に取り組みでいくのか尋ねたい。

【答弁】只見線は、10月1日、11年ぶりに全線運転再開を迎え、地元も驚くほど、全国から多くの方々に乗車いただき、にぎわいを見せている。

この盛り上がりを一過性で終わらせないよう、混雑緩和や二次交通など、新たな課題にも取り組みながら、只見線を応援してくださる皆さんと共に、地域資源の磨き上げや新たな魅力の創出を図り、只見線を核とした地方創生に挑戦を続けていく。

【質疑】今年冬の新型コロナウイルス感染症対策について

【質疑】今年冬の新型コロナウイルス感染症対策について、ウイルス感染症対策にどのような取り組みでいくのか、知事の考えを尋ねたい。

【答弁】新規陽性者を抑えるため、オミクロン株対応ワクチンの大規模接種等を実施する。また、感染不安のある無症状の方の無料検査により感染拡大の防止につなげる。

子育て支援・教育の充実について

【質疑】知事は、ライフステージに応じた子育て支援の充実にどのように取り組んでいくのか尋ねたい。

【答弁】安心して子どもを産み育てられる環境の整備には、妊娠、出産、子育てまでの、切れ目のない支援の展開が重要。このため、不妊に悩む方への支援、妊婦訪問等の実施、延長保育等の実施のための支援、保育の無償化等に取り組んでいる。

さらに、切れ目のない支援を一層強化するため、継続的に相談に応じ、必要な支援につなぐ伴走型の相談支援とその実効性を高めるための経済的支援を一体的に実施する市町村の取組を支援していく。

警察行政について

【質疑】事件・事故発生時の迅速・的確な対応について、県警察に尋ねたい。

【答弁】一般の方が通報する一〇番を警察本部で全て受理し、警察署や警察官へ対処方針を具体的に指示することで、初動警察活動を遺漏なく実施できるように図っている。



▲企画環境委員会 端末使用の様子

議会のICT化が進む

今定例会中に開催された企画環境委員会(高宮光敏委員長)、「県民健康・こどもの未来特別委員会(長尾トモ子委員長)及び広報委員会(坂本竜太郎委員長)で、タブレット等を活用したペーパーレス会議を試行導入した。今後、他委員会でも順次試行導入する。



会派構成

10月30日執行の福島県議会議員補欠選挙で2名の議員が選出された結果、11月1日現在の会派構成は次のとおりとなった。

現員58人(自由民主党31人、県民連合18人、日本共産党5人、公明党4人)、欠員なし

可決した国への意見書(令和4年12月21日、国へ提出)

- 1 食料安全保障の強化を求める意見書
- 2 私学助成の充実強化等を求める意見書
- 3 自動車に関する税制の在り方の適切な検討を求める意見書
- 4 緊急事態に関する国会審議を求める意見書
- 5 帯状疱疹ワクチンの接種に係る助成制度創設及び定期接種化を求める意見書
- 6 知的障がい者に関する法律の整備と全国一律の施策展開を求める意見書
- 7 高病原性鳥インフルエンザ対策を求める意見書

お知らせ

- ◆令和5年2月定例会は、2月13日(月)開会の予定です。
- ◆県議会インターネット中継(生中継・録画中継)はスマートフォンやタブレット端末からご覧いただけます。
- ◆「福島県議会フェイスブック」、「福島県議会公式



チャンネル(YouTube)「福島県議会ツイッター」もご覧ください。

◆ご意見・ご感想をお寄せください。
TEL: (024) 521-7608
FAX: (024) 521-7965
メール: gikaikoho@pref.fukushima.lg.jp

◆詳しい情報は →

！ 福島県医療ひっ迫警報発令中

- ・基本的な感染対策の徹底
- ・医療機関の適正受診
- ・自宅療養になった場合の備え など、私達一人ひとりが心がけていきましょう。